

2025年2月20日
千葉市若葉区
支え合いのまち推進協議会・講演会

地域コミュニティの再生に何が必要か

千葉大学大学院社会科学研究院教授 関谷 昇

1. 社会基盤の変化・生活環境の流動化

＜社会規模の縮小＞

- ・生産労働力の減少と社会規模の縮小
- ・国際競争力の低下・地域経済の規模縮小
- ・都心部への人口流入、農村部での人口流出、さらには過疎問題

＜自治体財政の縮減＞

- ・税収の減少と扶助費（福祉・介護・医療・子育て）の増加
- ・公共および民間サービスの縮減、各種施設の撤退・縮小

＜市民生活の変化＞

- ・所得格差（二極化）、消費力の低迷
- ・若者の生活困難、高齢者の孤立化、相互扶助の限界
- ・移動手段の欠如、空き家・空き店舗、休耕地の問題
- ・価値観の多様化、働き方の多様化、老い方の多様化

＜世代間格差＞

- ・少子化と社会負担の世代間格差
- ・将来世代への負担の積み残し など

囲い込み社会の限界と社会モデルの転換期

「囲い込み社会」（20世紀型）

- ・ 明確な境界線によって仕切られた各セクター
政治行政、経済、福祉、教育、医療など他と区別された独自の領域
セクター内部における組織性、専門性、生産性
ex. 業界内部のシェア争い、縦割り行政、大学のランクづけなど
- ・ 既存の枠組みに自分を合わせていくという発想と活動
人口増、安定した成長社会、セーフティネットが前提
標準的な世帯・働き方（年功序列、出世、終身雇用）・老後…
東京依存、都会志向、量の拡大としての幸福感
- ・ 仕切られた地域活動
自治会・町内会、社協、PTAなど…、エリア別・分野別の地域活動
自己完結的な団体活動、タテ社会（内と外）
長・役員・班長…といった組織構造、役割分担、輪番制



こうした社会が大きく崩れ出している現在

人口減少・少子高齢化を背景に、担い手不足や活動の停滞が顕在化
まちづくりの前提自体が流動化し、社会モデルが変わりつつある現在

越境する社会の模索

「越境する社会」（21世紀型）

- ・ 従来の枠組みを超えた多角的な交わり
グローバル化する経済、SNSを通じた交流
限られた諸資源 → 越境したヒト・カネ・モノの交わり
標準世帯モデルの限界 → 多様化する生活スタイル
- ・ 分野横断的な連携、集合知、共創 → イノベーション
各々の自由な参加、能力主義、個性、多様な働き方、起業など
ワークライフバランス、社会的公正、質の充実としての幸福感
多様な関係性と多様な自分
- ・ 地域資源×地域経済×自然環境×デジタル → 持続可能な地域づくり
地域における「学び」「仕事」「暮らし」と「豊かな生活」の創出
地域における資源循環とまちづくりの力



市民参加と協働のまちづくり

フラットな組織運営、立場や世代を超えた多様な主体・団体の連携協力
相互補完的な活動、緩やかなつながり、相互評価（peer network）
多様な主体の参加・協働、プラットフォームの形成、地域資源の活用

まちづくりをめぐる近年の動向

◎人口減少時代における「地域」のあり方

- ・ 定常型社会（持続可能な社会）へ向けた歩み
- ・ 限られた資源 × デジタル技術 → 課題解決志向・目的志向
- ・ 世界とつながる地域 → “glocal”という発想
- ・ 地域で暮らすことの多様性と可能性を創出していくまちづくり

◎地域資源の活用と価値の創造

- ・ 地域資源の多角的な認識、評価、結びつけ
- ・ 地域内発的なコンセプトの必要
- ・ 自然環境 × 地域経済 × 自己実現 → 新たな価値創造

◎方法論の変化

<計画>

課題解決型→価値創造型、分野別対応→分野横断的対応

<会議>

合意形成型→協働型、審議会型→地域連携型

<取組>

補助金型→地域資源循環型、分野別事業→相乗効果型事業

2. 地域コミュニティをめぐる諸課題

◎「行政拡大」から時代から「行政縮小」の時代へ

明治期以来、拡大の一途をたどってきた行政

慣習として根づいていた地域自治を行政が回収し、税金を通じて行政が公共サービスを提供する

行政主導のまちづくりの全面化



少子高齢／人口減少社会の到来

従来型の行政のあり方が物理的に不可能になる時代

行政主導のまちづくりの限界 → 行政の効率化の徹底

社会的連帯 → 地域自治の再構築（かつての自治、あるいは新しい自治）

◎「資源の新しい流れ」とコミュニティの可能性

- ・ 自助／共助／公助の境界線の流動化 → 誰が何をなすべきかの見直し

市民が自分たちでできることは自分たちで実践する

タテ社会の人間関係からヨコにつながる人間関係の構築へ

- ・ 諸コミュニティにおける資源循環と環境整備

人の移動、地域社会への資金投下、産業の多角化、情報の共有

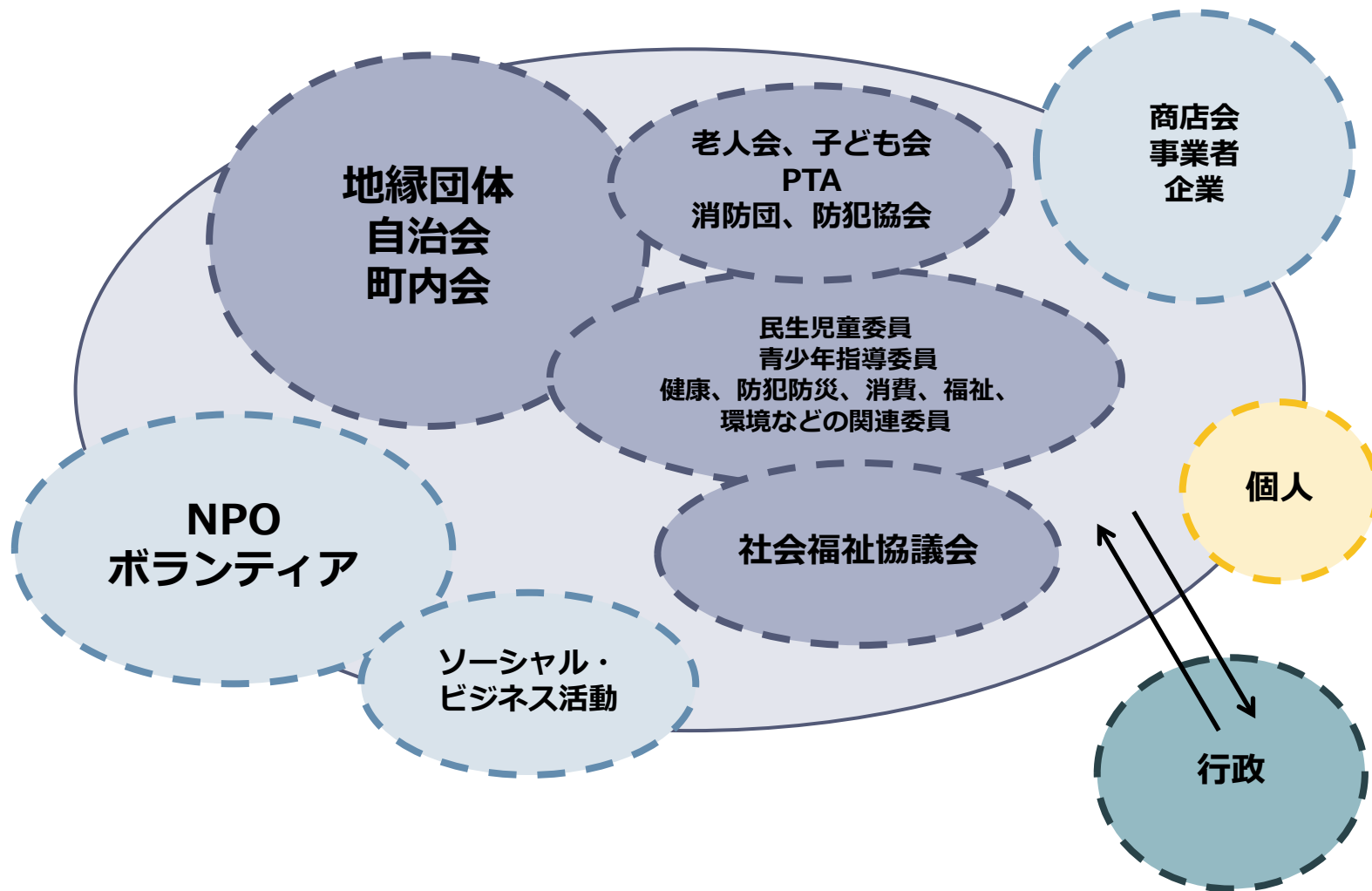
地域連携、自治体間連携、公民連携など



行政はその橋渡し役と側面支援に徹していく必要

必要最低限度の保証 + 協働によるまちづくり

地域社会における諸活動



日本社会における地域活動の特徴

◎地域社会の基本的な特徴

- ・ 地縁を基盤とした人間関係 ⇔ 個々人の契約・個々人の自発性に基づく自治
- ・ 法の支配よりも人の支配が優位
- ・ ホンネとタテマエ、ウチとソト、出る杭打たれる…といった同調圧力

村上淳一『＜法＞の歴史』（1997）

- ・ 西洋における法の支配は、法による人間関係と法によらない関係とを区分し、様々な対立を、法の言葉に則った独自の議論領域で解決することが基本
- ・ 日本の前近代社会では、法による関係が他の種類の関係から自立していることがない
- ・ 対立の解決は、人情の機微を通じた上位の第三者が判断するというやり方が好まれ、法も第三者の役割を担う権力者が上から定めるという傾向

◎地域活動をめぐる障壁

- ・ タテ社会の根強さ → 「横のつながり」の圧倒的な弱さ
- ・ 棲み分け（囲い込み）のまちづくり
- ・ 団体の性格や手法の違い → まちづくりの混迷あるいは変革の契機？

近代化＝地域コミュニティ否定の歴史？

日本の伝統的コミュニティ（＝自治の原型）

- ・ 自然と人間の共同体、生と死の世界を統合する共同体
- ・ 人々は共同体と共に生きる（自分たちの生きる小宇宙）
- ・ 中央集権化する以前は多元的な社会
 - 封建制社会と藩を中心とした自立的な社会
 - 地域社会における自給自足と自治（商業社会と農村社会）
 - 地域における様々な支え合いの網の目
 - ex. 結、子安講・頼母子講、寺子屋、水路管理、道普請、地域葬など

日本の近代化（明治維新以降）＝コミュニティ否定の歴史

- ・ 廃藩置県に始まる中央集権国家体制
- ・ 富国強兵から戦後高度経済成長まで「障壁」とされてきた地域コミュニティ
＝封建社会の残滓、合理主義の障害、解体し乗り越えなければならないもの
↓
- ・ 行政によるコミュニティ再編 → 「専門分化」した社会へ
行政がコミュニティ自治を回収して、上から管理統制（道路、水道、公衆衛生、教育、福祉、産業…）
経済性、効率性、安全性の追求（＝近代化の延長）
社会の隅々にまで専門分化された、上意下達の縦割り体制が浸透（自治＜機能調達）

地縁団体をめぐる課題

● 団体運営の困難さ

- ・ 会長や役員など特定の人への負担加重
- ・ 団体運営の形骸化、活動のマンネリ化（地域格差）
- ・ 加入率の低下、担い手の不足、協力依頼の困難
- ・ フリーライダー（ただ乗り）の増加、社会的課題への無関心

● 伝統的活動スタイルゆえの閉鎖性

- ・ 世帯単位の構成、各種役員、班長の輪番制、離脱への批判
- ・ 固定化された組織運営、前例踏襲の事業活動
- ・ 前近代的性格、階級・権威主義、団体の閉鎖性、よそ者排除
- ・ 負担分担、脱会、支出などをめぐるトラブルの増加

○ 地縁を生かした立体的な「つながり」へ

- ・ 地域住民を包摂しうるネットワーク、行政との強固なパイプないし連携
- ・ NPOや企業など性格や手法の異なる諸団体との積極的な連携

↓

- ・ まちづくり協議会への段階的発展の動き
- ・ 小学校区などを基盤とした諸団体が参画する地域自治組織
- ・ 地域課題や魅力創出に向けた目的志向の「つながり」へ

テーマ型活動団体をめぐる課題

◆団体運営の困難さ

- ・地縁型団体と比べて住民の認知度が弱い
- ・資金調達（会費・参加費・寄付・競争的資金）の不足
- ・活動に必要な人材（特に若手）の不足（市民活動疲れの遠因）
- ・行政依存のスパイラル（住民の行政依存～団体の補助金依存～自立の弱さ）

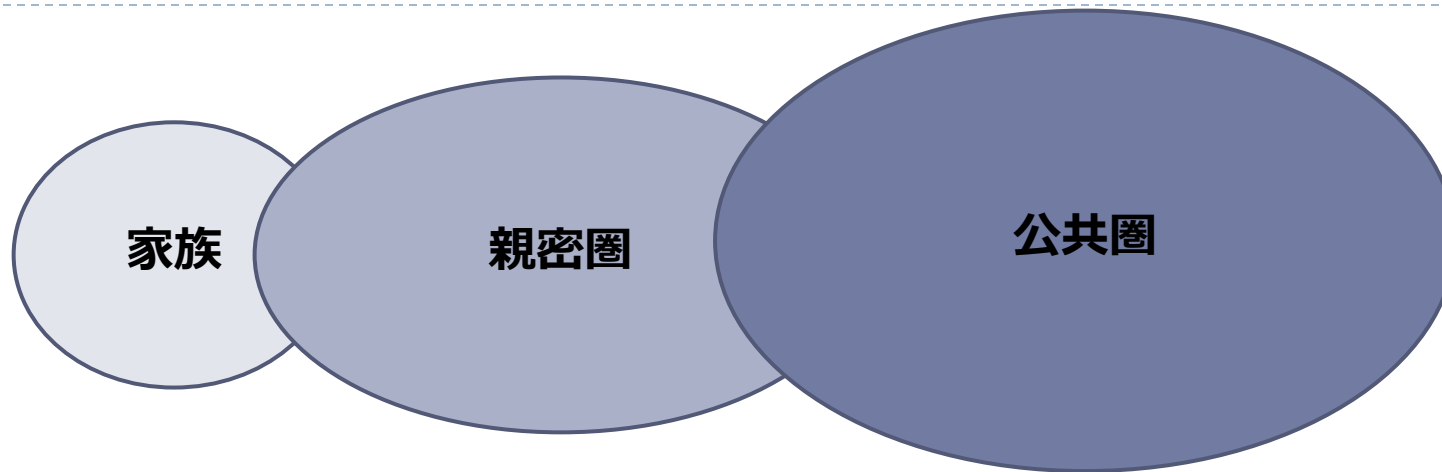
◆社会変革の合理性をめぐる是非

- ・「成果」を志向した戦略的手法の全面化（データ化・数値化・合理化）
- ・民間企業の手法との類似化（SWOT分析など）
- ・各種団体の機能的な結びつけ（マッチング的手法など）
- ・合理的思考と地域的思考とのズレ

◇専門性を活かした立体的な「つながり」へ

- ・専門的観点からの問題提起、課題解や魅力創出に向けた共感の創出
 - ・課題分析の多様性を示すことで、多角的な参画を促す
- ↓
- ・共感のネットワーク創出に向けた積極的な動き
 - ・ボランティアから自立的活動へ（ビジネス、プロボノ、寄付…）
 - ・地域課題や魅力創出に向けた目的志向の「つながり」へ

「あいだ」をつなぐ発想と実践



- 私的空間と公的空間の断絶 → 私的空間への引きこもり・公的空間の萎縮
- 私的空間に押し込まれてしまう諸問題 ex. 子育て、介護、労働、性差、暴力…



私的空間と公的空間を接合させる = 「あいだ」をつなぐ地域づくり

家族：私的生活、個人の権利、私的利害 ↔ 孤立、問題隠蔽、標準化、客体化

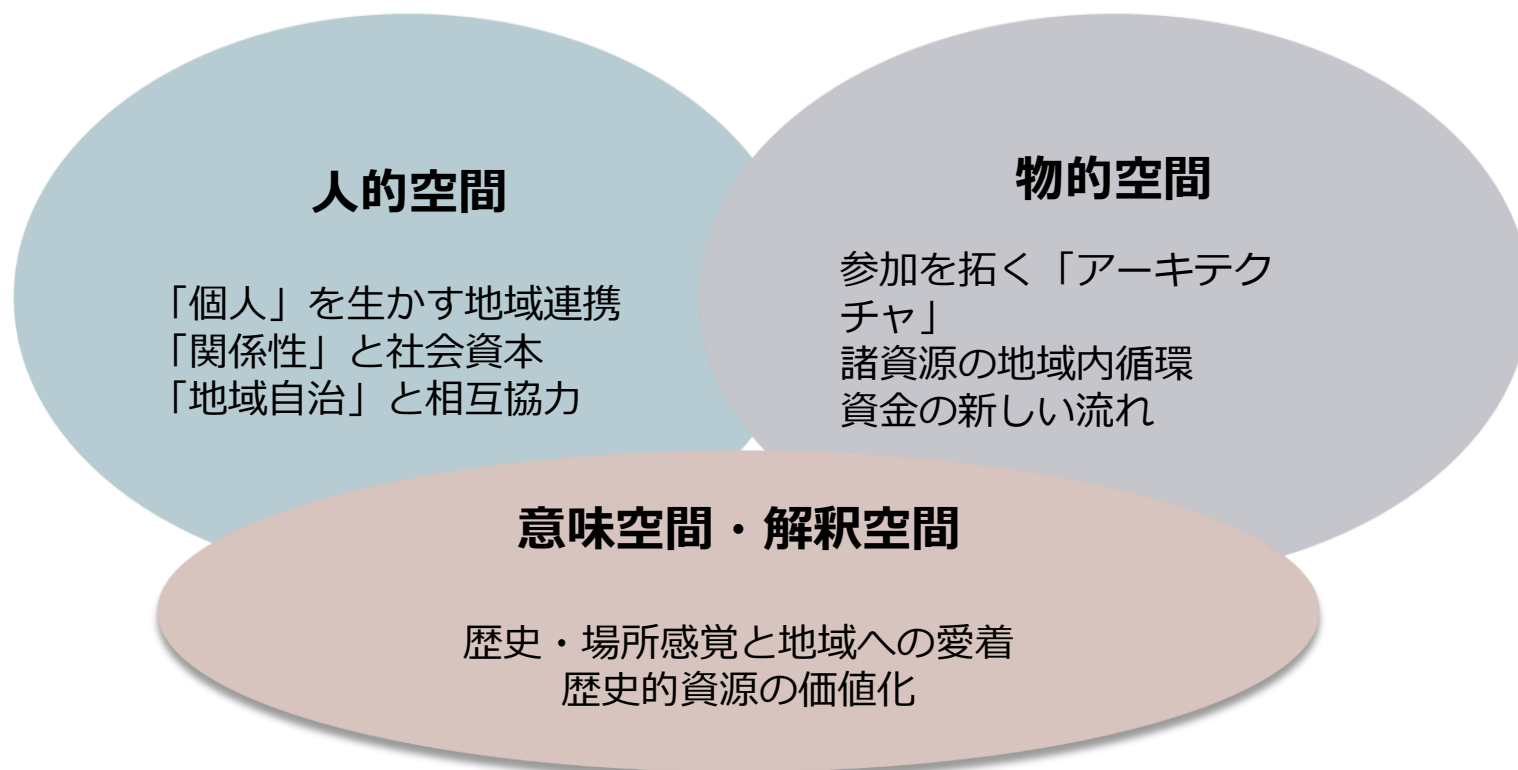


親密圏：家族・親族、恋愛関係、友人関係など愛情・友情・ケアといった親密さ
「私」を支える関係性、公共感覚の萌芽・醸成 → 他者への尊厳的態度



公共圏：近隣関係、自治体、市民社会におけるコミュニケーション、公共的活動
様々な規模や質のプラットフォームの形成と参加

3. 地域コミュニティの「力」を引き出す



政策形成において考慮すべき視点 = 人的空間・物的空間・意味空間

これらのバランスの喪失は、政策実施の上で様々な支障となる

協働プロセスのつくり方

●問題のあぶり出し

現場や当事者の声

- ・各種調査、アンケート、ヒアリング
- ・キーパーソンの発見、専門家の登用、事例研究

既存の取り組みの棚卸し

- ・行政の諸事業と地域の諸活動の洗い出し
- ・コミュニティへの依存状況をめぐる調査
- ・うまくできていること／できていないこと

●課題設定と実践の模索

問題の共有と課題の設定

- ・地域（市民・民間）と行政との対話の積み重ね
- ・ワークショップや地域円卓会議など立場を超えた意見交換の場の設定

各種支援

- ・事業支援の補助金、初期支援
- ・プラットフォームの段階的形成（公民連携型、地域自治型ほか）

課題をめぐる情報発信と共有

多様な団体／個人の参加

アイデア～具現化に向けた話し合い～連携づくり

①一人ひとりの生き方を尊重する地域づくり

従来の拡大・成長社会

- ・人口増加や安定した経済成長を前提
- ・量的拡大が社会的な価値基準（国家全体の利益を効率的に拡大）
- ・国益増大優先が地方発展、個人生活の充実をもたらすという発想



人口減少社会はダメなのか？ 拡大する社会は取り戻せるのか？

→ 「低成長・成熟社会」への転換！

- ・問われるべき持続可能な社会
- ・物的充実のみではなく多様な豊かさの追求
- ・当事者の意思の尊重、自己実現への配慮と支援
- ・現場に即した内発的なまちづくり



「個人の生き方」を問うことが起点

- ☆一人一人が自分なりの生活・働き方・最期を実践できること
- ☆そこから地域のあり方、社会（国家）のあり方が問われる必要

ここがポイント！

重層的な福祉ネットワーク（豊中市社会福祉協議会）

- 地域共生社会をめざして ～排除から包摂へ～

制度の狭間から地域づくりへ

漏れのないセーフティネット

- 地域福祉推進専門職の役割

【個別支援】（伴走型） 生活困窮者自立支援制度 <パーソナルサポートセンター>

就労支援・生活支援・アウトリーチ

【コミュニティ・ソーシャルワーカー】（制度の間の支援）

福祉なんでも相談（小地域福祉ネットワーク）

見守りネットワーク、ローラー作戦、地域福祉ネットワーク会議など

【生活支援コーディネーター】（CSWと兼務）

地域包括支援センター

介護予防、高齢者参加・生活支援メニュー開発

「つなぎ役」

- 重層的な見守りの方法

↑ 豊中市域：行政サービス、介護保険 事業所による見守り

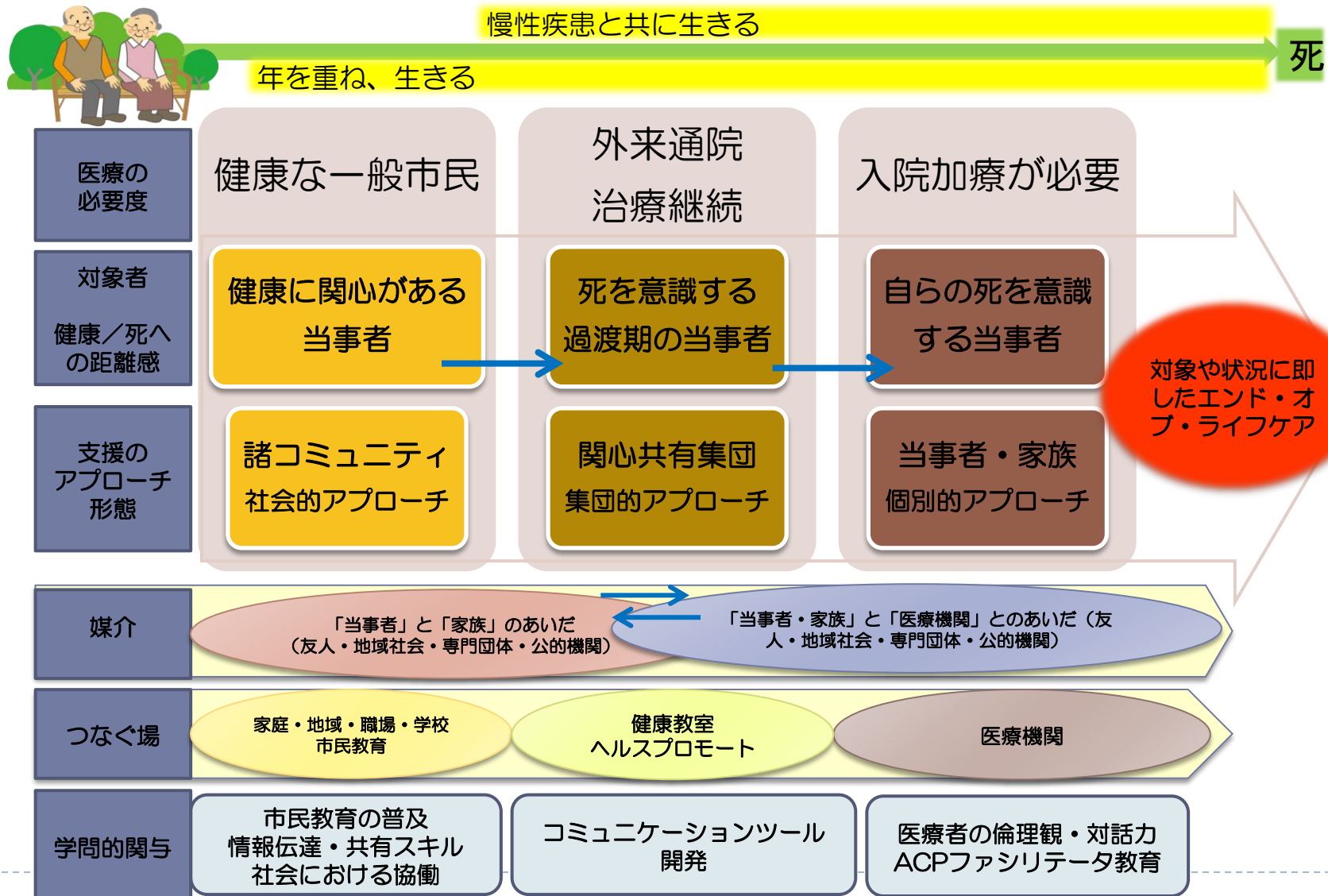
生活圏域：地域包括支援センター、コミュニティ・ソーシャルワーカー

小学校区：小地域福祉ネットワーク、民生委員、老人会など 安否確認 なんでも相談 配食

近隣：自治会、あいさつ 見守り

家族

エンド・オブ・ライフケアのモデル（千葉大学看護学）



専門家ネットワークと地域コミュニティの架橋

◇「死」や「在宅医療・看護」を学ぶ機会

- ・コミュニティカフェなど任意の地域活動
- ・死を考える場や機会が少しずつ増加している傾向
- ・遺言作成、お墓や遺贈の検討、エンディングノート作成といった場面
- ・地域サロン、市民大学、相談窓口 など

◇医療・ケア機関と地域住民との対話

- ・在宅医療や訪問看護の相談窓口
- ・専門家ネットワーク（医師、看護師、ケアマネほか）の橋渡しを通じて、状況に応じた治療・ケアや支援を選択
- ・病院主催による講座や講演会、地域ケアをテーマとしたレクチャー など

◇当事者に寄り添う地域づくり活動

- ・傾聴ボランティアの増加（育成講座や団体活動）
- ・見守りやお助け隊による住民間の支え合い活動、病院ボランティア
- ・介護・福祉以外の領域における諸活動との接点づくり など

→ **予防から看取りまでを包括的に支援できる場づくり**
当事者と専門家や支援者とを多角的につなぐ地域づくり

②世代やニーズの違いと多様な入口

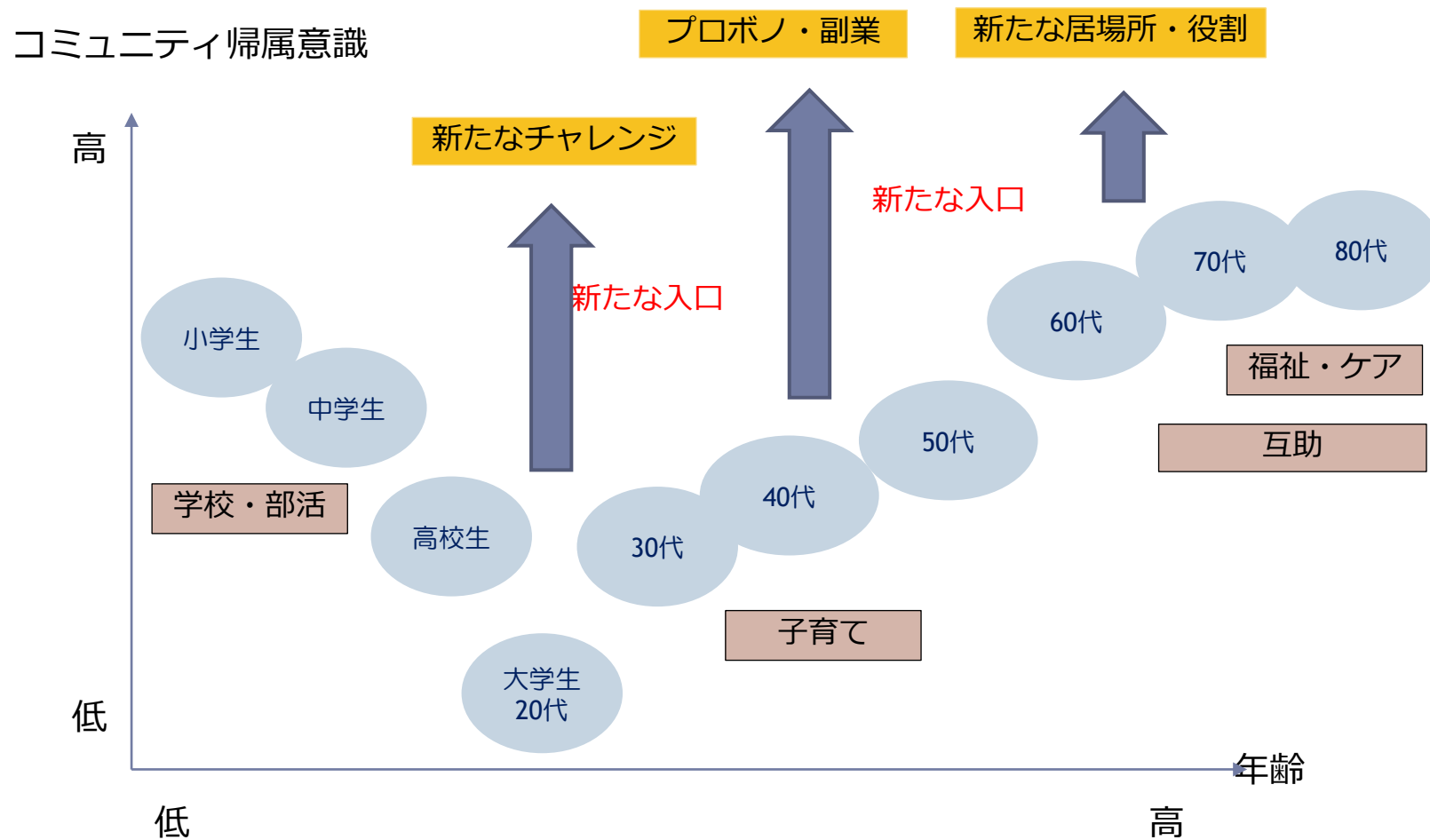
世代間ギャップ、ライフスタイルの変化

- ・ 世代感覚の違いを理解し合う対話
異世代間の積極的な交流
互助のイメージの違い、コミュニケーション手法の違いなど
- ・ ライフスタイルの変化に即した地域活動のかたち
あらかじめ活動内容や役割を決めてしまわない工夫
新しい関わり方の模索（若者たちに自由に取り組んでもらう）

地域ニーズの洗い出し

- ・ 地域住民が地域活動に対して持つニーズ
地域住民から共感を得られる活動内容
アンケート、関係者・当事者へのヒアリング、各種調査の活用
- ・ 共通する課題と特定の人たちに関わる課題との交通整理
全体にかかわること → みんなで
特定の関心に関すること → 関わりのある人たちで
自分にとっての関わりがある「入口」を見つけられる

世代ごとの着眼点の違い



地域マネジメントの実践（千葉県市原市青葉台）

第I期 心豊かに暮らせるまちづくり（1990年～）

○未来志向型社会を目指し、町会協議会（まちづくり委員会）を設立

- ・ 独居老人向け会食、子ども対象の読み聞かせ、市民大学での生涯教育、高齢者向け福祉サービスなど多様な地域活動の展開
- ・ 高層マンション建設反対運動（5年間の紛争）→地区計画づくりへ

第II期 新しい価値を創造し続ける街へ（2018年～）

○青葉台再生プロジェクト

- ・ 団地再生をテーマとした地域円卓会議への参加（高齢化・空き家）
- ・ ニーズ調査（全世帯・子ども対象アンケート）
- ・ 公民連携→39PJミーティング

地区対話・地域魅力向上塾の開催

○マネジメント

町会協議会＋39実行PJ

各チームはロードマップで活動を自主管理

各PJリーダー会議・事務局会議・行政との連携

分野	優先課題
高齢になっても永く住み続けられる街づくり	買い物・外出が困難な方対応、福祉タウン構想
災害や犯罪に強い街づくり	地区防災計画の策定
美しい街づくり	ohana いっぱい活動、空き家・空き地の有効活用
子育てのしやすい街づくり	子供を安心して預けられる場所づくり（こどもミライ会議）
活気ある街づくり	イベントの統廃合、盆踊りの活性化、商店街の空き店舗活用
10年後も20年後も価値が棄損されない街づくり	HP・アプリの開発、自治会機能の減退防止策の検討

※「市原市青葉台における地域マネジメントの実践例」より

(https://www.ja-am.or.jp/download/research_publication/2021/164.pdf)

③関係人口と地域連携

◎関係人口の拡充

- ・地域と関係を持つ人々、ルーツのある人たち、ふるさと納税者
 - ・当該地域で、知識・技術などを生かして課題解決に取り組む人
- ↓
- ・自分の持ちうる力を発揮することが地域の課題解決に結びつく
 - ・当事者が当該地域との関わりで有する思い・利害・必要性和、当該地域が抱える諸課題とを架橋するしくみ

◎人材受容の環境

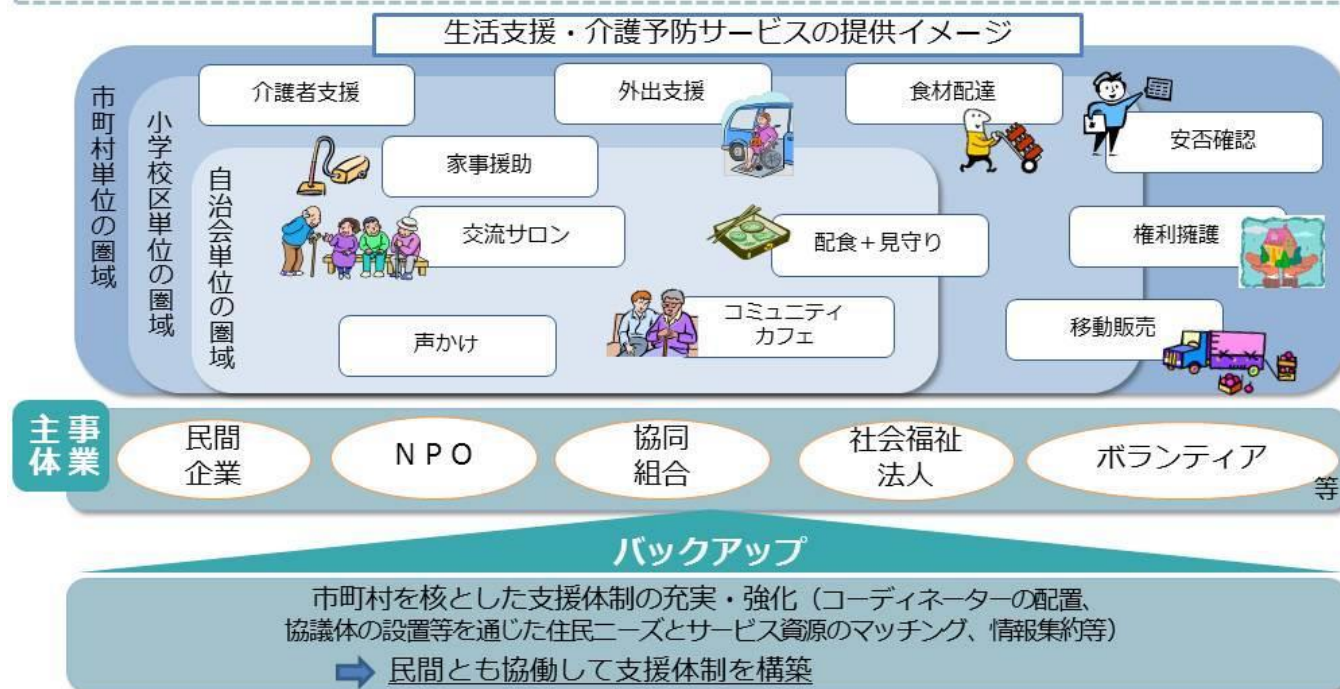
- ・地域課題の「見える化」
何が必要とされているかを地域ぐるみで発見・共有
- ・地域外人材との接点づくり
 - 空き家対策 → 魅力ある改築、生活支援交流拠点など
 - 健康づくり → 未来の看護・福祉・教育人材の実地研修など
 - 若者誘致 → インターンシップ
 - 資金確保 → 寄付サポーター、商店街と寄付つき商品販売など
 - 価値づくり → 起業支援など

多様で重層的な支え手（地域包括ケア）

多様な主体による生活支援・介護予防サービスの重層的な提供

○高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築を支援

- ・介護支援ボランティアポイント等を組み込んだ地域の自助・互助の好取組を全国展開
- ・「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の配置や協議体の設置などに対する支援



厚労省「介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン」より

24

地域包括ケア評価会議の役割（浦安市）

○自由な対話の場

- ・それぞれの立場をめぐる相互理解、そして連携を模索する
- ・市民目線からの声や意見、提言、行政からの説明や提案
- ・他の会議や協議体からの情報や意見を包括的に整理して、議論する

+

○「地域包括ケア」の外側への眼差し

- ・今まで以上に、関連する領域や公私にわたる動きを共有する
- ・世代、分野、区域を超えたつながりの検討する

↓

○議論の積み重ね

- ・特定の課題を継続的に議論し、課題および取り組み内容の深掘りを図る
- ・実現に向けて必要となることを明確にし、各方面に発信できる情報にする

↓

○政策形成に向けた一歩

- ・事業フレームありきではなく、できていないことを誰がどのように対応するか調査・検討し、できることを一つ一つ形づくる
- ・他部署（分野）の契約や取り組みとオーバーラップする点を共有し、協働事業を段階的に組み立てていく

④地域自治と環境づくり

- 活動継続に見られる焦点のズレ

団体の関心から組み立てられる課題、手法、活動内容



現場実態や他団体・行政の取り組み状況を十分に調査・検証・分析できているか？

これが十分でないと、「団体ありき」の活動に陥り、さらには現場で求められていることとのズレを生じさせてしまう

団体の縦割り・分野の縦割り・世代の縦割り・地域の縦割り

- 課題の掘り下げを丁寧に行うところから、はじめて現場の問題、地域活動をめぐる課題、行政の限界などが見出される

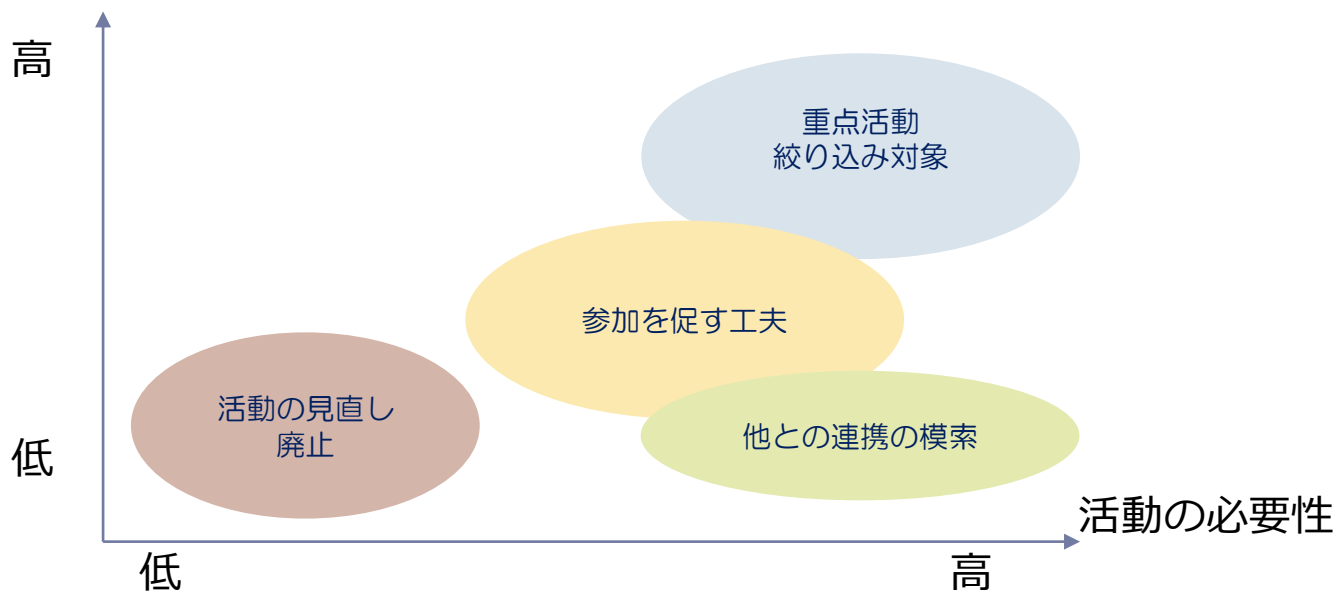
- 課題解決に向けた相互協力や役割分担を見出すところに、本格的な「協働」の糸口が見出される

地域活動の見直し

地域活動の現状

地域住民の参加が見込める活動と見込めない活動の洗い出し
活動の必要性和高い活動と低い活動の見極め

参加状況



地域活動の棚卸しと補完関係

- 自助でできないことをより大きな単位が補完
 - ・ 地縁ゆえに全てを抱え込むという発想からの脱却
 - ・ 個人や世帯でできないことを近隣活動が補完
- 地域コミュニティの重層化（補完性原理）
 - ・ 近隣でできないことを学区単位で補完
 - ・ 既存の単位でできることはそのまま継続し、できないことについては解決にふさわしい規模の活動母体に移行
 - ・ 地縁に留まらない市民、民間、地域活動との連携
 - ・ 市民の自由な発想
- 地域における共助では不可能な事柄を行政が補完
 - ・ 自助や共助のあり方から公助のあり方が見出される
 - ・ 市民と行政との協働（組織・分野・世代にとらわれない発想と実践）

→これらの最適解は自明ではなく、対話を通じて見出していくことが重要

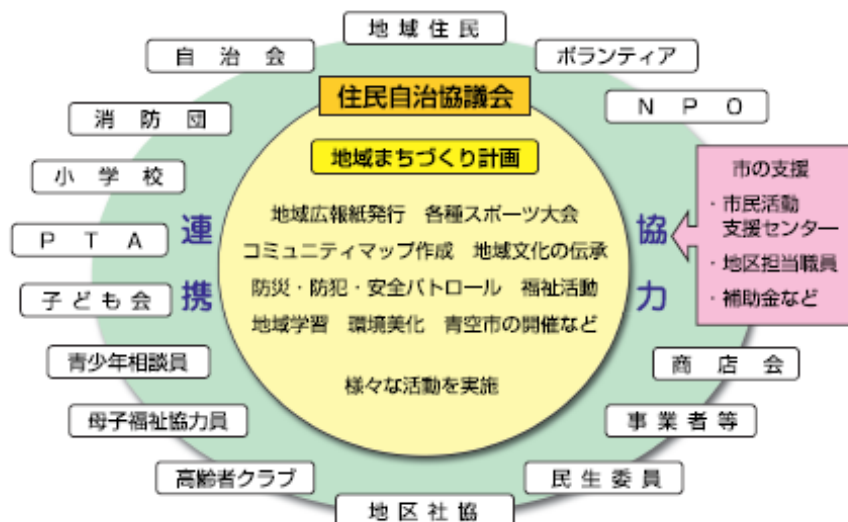
地域ぐるみの支え合い活動（千葉市幸町1丁目）

- き
- 地道な地域活動の継続
 - 防犯・防災活動（防犯パトロール活動、炊き出し・備蓄品共同購入など）
 - 安心サポートの会（力仕事、ゴミ出し、掃除、電球交換、買い物代行、病院付き添い、電気製品の修理、大工仕事など。入会金1,000円、1時間500円）
 - 高齢者を支える支援（毎週金曜の朝市、ふれあいサロン、人生万歳など）
 - 一般論ではなく市民の生の声を通じて地域の課題を共有することが出発点
 - 取り組みの工夫
 - ・地域コミュニティ委員会
 - 自治会などの役員経験者の有志が集まり、地域活動を多角的に支援
 - 任期交代による活動の停滞を補完する狙い
 - ・円卓会議からの出発
 - 自治会連合会／各種地域団体／学校／医療福祉施設／民間企業の連携
 - 連携体を通じた課題発見、計画づくり、各地域団体の協力
 - 円卓会議をNPO化し、まちづくりの求心力を高める
 - 既存の地域活動団体を管理するのではなく、各々が抱えている問題を補完
 - 既存の地域活動団体から自由な提案を受けつけ、多くの市民を巻き込む工夫

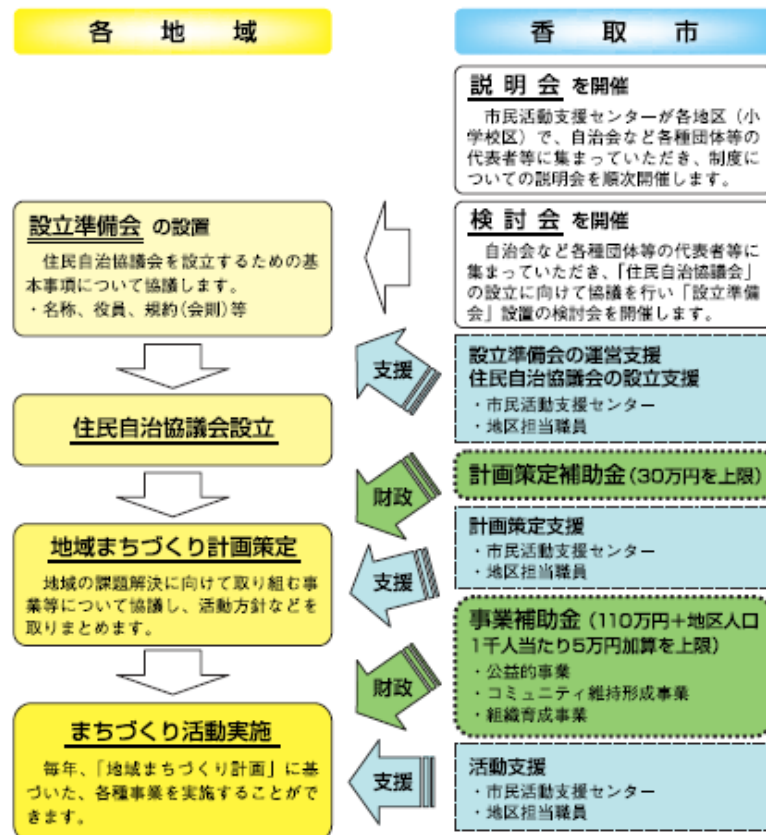
地域の誇りと地域自治組織の活用（香取市）

- 「かとり風」（協働指針）から「まちづくり条例」づくりへ
 - ・合併前の四地区を何回もめぐり、対話型で「地域づくり」の形を模索
- 住民自治協議会の発足
 - ・小学校区ごとに個性ある連携（様々な団体や市民の横のつながり）、地域計画の策定
 - ・支援センター、地域担当職員を通じた行政支援
 - ・地域を基盤としたまちづくりへの展開可能性

住民自治協議会のイメージ



住民自治協議会の設立手順の例



香取市八都小学区まち協

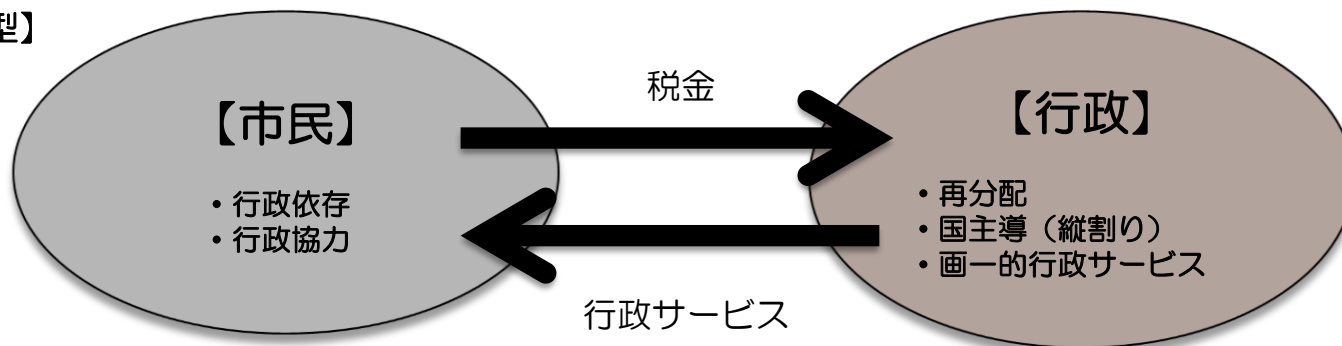
グループ名 事業名 (分野別、項目名)	活動内容	効果	活動の主体や 中心人物
■環境美化活動グループ ■事業名 花いっぱい活動、ふるさとを美しくする運動 (1 環境、環境美化活動) ■事業名 八都小学校区防災会設置事業 (3 防災・防犯、地域防災対策)	各区ごとにプランターを配布(土、種子) 年2回程度の作付 配置場所: 小学校・保育園・郵便局等 こみ捨て禁止看板を各区に設置 看板は小学校等に標語を募集 ■いつ: 5月~6月(防災訓練)その他、地区の事情による。 ■どこで: 八都小(防災訓練)及び各地区集会所等 ■何を: 区内7地区に自主防災組織の設置及び統括組織の設置、防災倉庫の設置、防災訓練の実施(区全体)及び各地区防災マップ作り	環境の美化と子どもから高齢者まで共同で作業することで世代間の交流が深まる。 こみ捨て防止につながる。 地域住民の実態を把握し、緊急時及び災害に備える体制づくりを行う。	子ども会、保全会、高齢者クラブ 地区役員及び消防団、行政危機管理担当者
■地域安全グループ ■事業名 お散歩パトロール事業(危険箇所マップ作成含む) (3 防災・防犯、地域安全活動)	■いつ: 通年(出来れば毎日) ■どこで: 各区地域(危険箇所マップコース) ■何を: 子ども達の登下校時に合わせ実施	子ども達の登下校時の安全確保、昼間の空巣防止等の防犯、シニア世代の健康増進とコミュニティ作り	各区地域の有志 マップ作成時は保護者(PTA等)の参加
■事業名 健康生き生き活動「高齢者を中心として」 (4 健康・福祉、高齢者生き生き活動)	■いつ: 春、夏、秋、冬(豊かな地域の四季を感じながら) ■どこで: 橋ふれあい公園、戸田神社を始めとする寺社めぐり ■なにを: 植物観察、ウォーキング、空缶拾い、山そうじ、竹とんぼ(昔遊び)、史跡めぐり	高齢者が世代間交流を行うことにより、心も体も元気になる健康になる。	まちづくり協議会委員が中心となり声を地域住民に声をかける。

■事業名 ウォーキング活動 (4 健康・福祉、地域健康交流活動)	年2回5月中旬、10月中旬 橋ふれあい公園周辺で世代間交流ウォーキング大会	健康づくり、世代間交流、地域間交流	区長、高齢者クラブを中心とした実行委員会が事業計画から実施まで行う。
■事業名 地域の知恵の活用～誕生!八都地域大学 (5 教育・文化、地域の知恵の活用)	事務局の立ち上げ 5月 ホームページの作成 6月 教授の登録 7~8月 学部の新設(歴史、地理、農業、教育、イベント) 学生募集→準備OK→活動	「八都」を知る(子ども~高齢者)、世代間交流、子育て情報交換	支援センター、小学校
■事業名 地域文化の継承 (5 教育・文化、地域文化の継承)	■いつ: 八都小学校運動会、八都保育園の夏祭り(学校との協議要) ■どこで: 八都小学校 ■何を: どうする: 地域の子ども神輿運動会の昼休み等の時間を利用し、地域の祭りの良さを再認識、四季折々の写真等を掲示	地域間の交流、年代間の交流	子ども神輿愛好会を立ち上げ主体となり、地域に協力をいただく。広報活動を通じて協力をいただく。
■事業名 情報発信活動 (6 地域コミュニティ、情報発信収集活動)	広報誌によりまちづくり協議会の活動内容(PR、周知、募集)をお知らせする。 年4回、春夏秋冬、広報誌A3版両面 最初はできることから将来的→HP、PRグッズ、あぜみち etc	まちづくり協議会の活動に対する理解(アンケートでは情報不足が指摘されている) ①知ってもらおうが一番→活動の活発化 ②仲間づくり ③アイディアや意見の募集→双方向を繋ぐ媒体	公募により編集委員を組織→集まらない場合は地区推薦学生に目を向ける。 メール世代でポテンシャルの高い編集委員など全般的に力を借りる。 無理のない範囲から、業務によっては外部委託

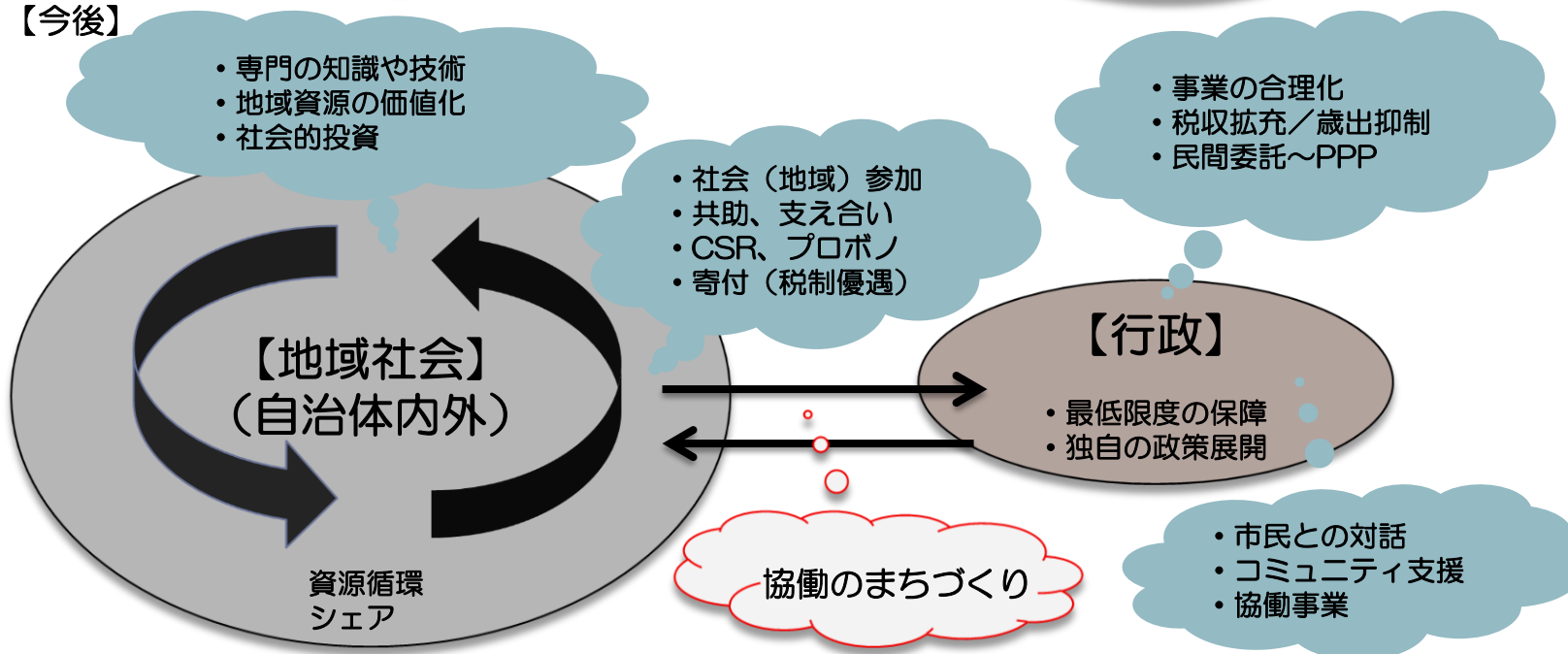


⑤地域における資源循環

【従来型】



【今後】



様々な寄付のかたち

寄付税制

- 寄付を通じて社会貢献したい人の活動を促進する目的
- 一定の法人に寄付した場合、寄付金の控除が受けられるしくみ

遺贈寄付

- 遺言によって、自分の財産の全部または一部を、民間非営利団体や自治体に寄付する行為
- 故人の財産を相続人が寄付する行為

地域通貨

- 地域における消費喚起と資金循環をつくり出すしくみ
- 独自のポイント制度を付加することで、獲得したポイントを消費や寄付に活かす

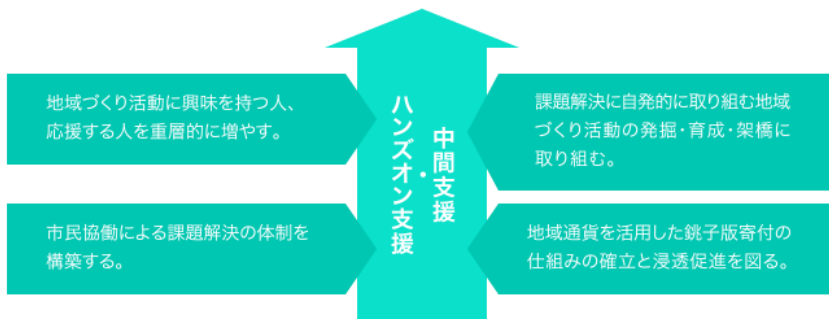
クラウドファンディング

- 一定の活動に対して、インターネットを介しながら、資金や協力を求める
- 寄付を通じて、地域活動に参加・貢献する



円卓会議と資源循環（銚子市）

市民一人ひとりがそれぞれに幸せを感じて暮らす
『魅力と活力ある地域社会』



銚子円卓会議構成主体

- | | | |
|--------------|-------------|--------------|
| ・銚子市 | ・銚子市小中学校校長会 | ・(一社)銚子青年会議所 |
| ・銚子商工会議所 | ・銚子信用金庫 | ・銚子商工会議所青年部 |
| ・(一社)銚子市観光協会 | ・銚子商工信用組合 | ・NPO法人BeCOM |
| ・銚子市教育委員会 | ・千葉科学大学 | |

<備蓄品企業／ビジネスパートナー>

珈琲、煎餅、木の葉パン、ピーナッツ・ハニーゼリー、
米、サバの文化干し、ハーブティーなど

<支援先・エリアパートナー>

東庄町、香取市、和歌山県有田郡広川町
石川県珠洲市（登録中）

<支援企業・支援パートナー>

銚子信用金庫、銚子商工信用組合



- ・越境する社会におけるコラボのかたち
ローリングストック（自助）× 災害寄付（共助）
× 地元産品の普及

↓
自治体の境界線を越えた市民主導の災害協力
地元産品を活かした新しいストック

- ・参加者たちの思い
自助（災害意識）× 共助（寄付）
→ 参加者の思いの循環
新たなつながり

- ・資源循環の可能性
二者間関係に引き戻すことは
逆効果であって、多者間関を豊かに
広げていくことが重要

<https://choshientaku.com/>

シェアリングエコノミーの浸透

空き家・空き店舗・公共施設の活用

シェア・オフィス
オフィスのプラットフォーム化
地域創造の拠点形成

若者・女性の雇用創出

クラウドソーシング
(遠隔地での仕事請負)
知識や技術のシェア
(生涯教育から起業まで)
インターンシップの受け入れ

子育て環境の充実

保育園の送迎、家事シェア
異世代間交流と預かり・見守り合い

地域移動の充実

カーシェア、シェアサイクル
ボランティアドライバーと利用者とのマッチング
既存の公共交通の補完

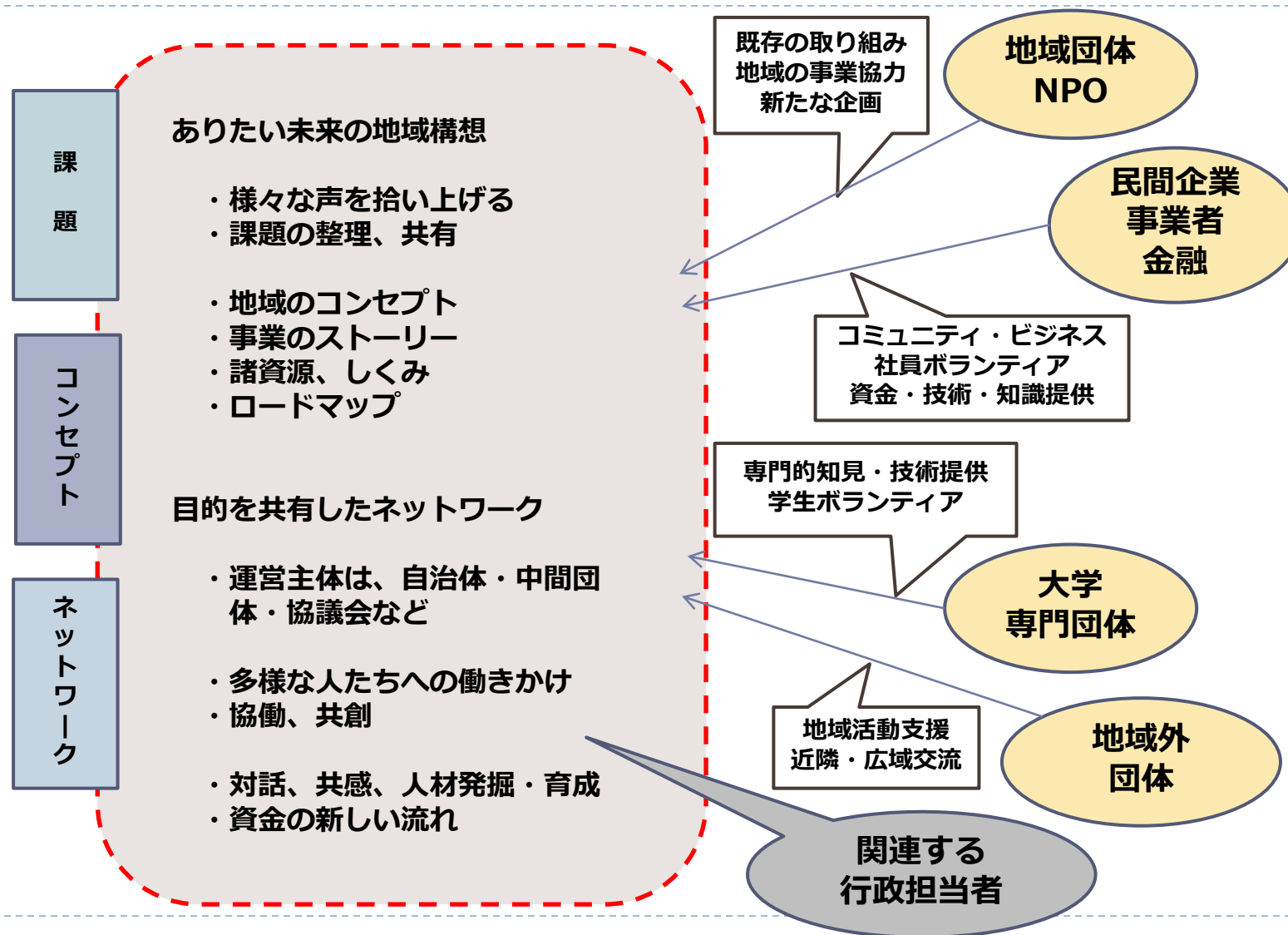
観光振興プログラムの充実

観光体験・観光ガイドのマッチング
地域産業の面的な連携
民泊

災害時の支援

自治体と関連企業との災害協定
地域コミュニティと企業の災害時連携

プラットフォーム・円卓会議の勧め



「響き合い」のまちづくりに向けて

◆立場・目的・手法の違いを「相互に知ろう」とする姿勢

- ・できることから始めてみる
- ・個人的趣味／仲間で楽しむ活動／他者への奉仕／公共的活動などを安易に一括りにせず、まずはそれ自体を尊重する（連携と棲み分け）
- ・課題や解決方法などあらかじめ決まっているわけではないことを踏まえ、各々の立場の背景や事情、狙いや考え方をお互いに知る
- ・当事者に即した問題把握が想像力と具体的な動きを生み出す

◆地域における多角的な「入り口」

- ・各人ないし各団体が、自分の関心や目的、置かれた環境に応じて接点を持ちうる【情報】【手法】【場や機会】の存在
- ・地域づくり活動が生み出しうる「ストーリー」の創出と「イメージ」化
- ・必ずしも目的を同じくしない活動が、活動過程を通じて結果的に公共的活動や地域活性化に結びつく

◆取り組みながら考え方や行動の仕方を「とらえ直す」柔軟な発想

- ・継続的な対話や活動の過程を通じて、当初の思いや狙いに新しい可能性があることを発見することで、様々な「響き合い」を創り出す
- ・異質なものが相互に響き合うことを通じて価値の創造が行われていく
- ・結果的に見えてくる解決方法、役割分担、相互連携
- ・自治体や地域のために何ができるかという視点の必要

【参考】社会的共通資本（宇沢弘文）

社会的共通資本とは

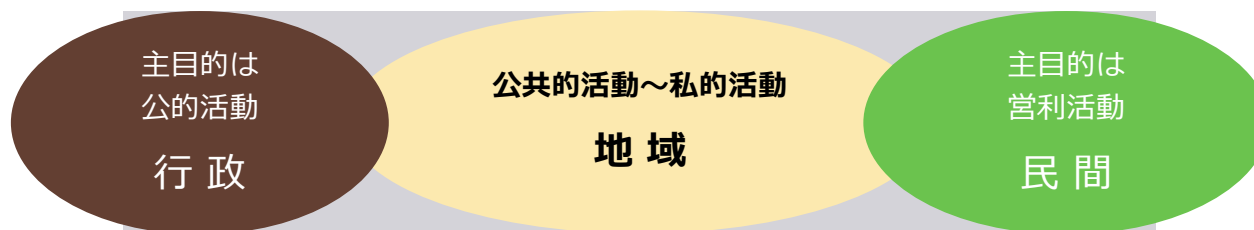
- ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような自然環境や社会的装置
- 社会全体としての共通の財産であり、それぞれの社会的共通資本にかかわる職業的専門化集団により、専門的知見と職業的倫理観にもとづき管理・運営される
- 一人一人の人的尊厳を守り、魂の自立を保ち、市民的自由を最大限に確保できるような社会を志向し、真の意味におけるリベラリズムの理念を具現化する

分野・領域・地域ごとの営み

- ①自然環境（山、森林、川、湖沼、湿地帯、海洋、水、土壌、大気など）
 - ②社会的インフラストラクチャー（道路、橋、交通、上下水道、電力、ガスなど）
 - ③制度資本（教育、医療、金融、司法、文化など）
- 社会の共通の財産として、社会的な基準にしたがって管理されなければならない
 - 中央省庁の官僚的な支配や市場の利潤追求とは異なる形で分配のあり方が問われる
 - 社会的共通資本としての「都市」「農村」のあり方

自立のかつ重層的な地域活動（続き）

定常社会（持続可能な社会）



行政

- 社会的共通資本を守る（国家の管理統制や市場での利潤追求とは異なる）
- 市民が生活し、働き、支え合う場や環境を創出する
- 各々の領域に、市民・専門家・民間が参画できる架橋を果たす

地域

- 社会的共通資本を守ることから雇用や支え合いが生まれる
- 社会的共通資本ごとに、市民・専門家・民間が自立的な運営を図る
- 各人は自由に参加し、働き、自己実現を図る

民間

- 大規模市場より地域市場を充実させる
- 地域における生産と消費、需要と供給のバランス
- 地域の資源循環と課題解決の融合